

(様式 3-1)

## 平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 10 日

代表者 狩野 浩二

研究課題名	授業研究を核とする学校づくり運動に関する総合的研究 —泡瀬小学校（沖縄）における教育実践を中心に—
研究期間	平成 29 年 6 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	久保田葉子（人間福祉学科講師）
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究では、沖縄県沖縄市立泡瀬小学校（以下、泡瀬と表記。校長宮城和也）における学校づくりに関して、同校の教職員とともに授業研究に取り組むことにより、斎藤喜博（1911－1981）を起点とする「授業研究を核とする学校づくり運動」との関連、差異を検討することを目的としている。研究にあたっては、2017/4/1 和光市内、6/24 学士会館本館において宮城和也校長と今年度の取り組みについて検討した後、8/23～25 夏の校内研修会を実施、教材解釈及び、歌唱、朗読、身体表現技法の指導を申請者が行った。10/16～20 において 2 回目の校内研修会を実施し、全学級の協働授業と示範授業を行った。12/4～17 において第 3 回目の校内研修会及び、第 2 回学校公開研究会を開催した。10 月と 12 月の研修会において、スチューデントアシスタントとして本学学生による支援を行った結果、児童や教職員から高い評価を得た。同取り組みの成果は、前出学校公開研究会において講演ならびに協議会を実施し、内外にその成果を示したほか、『研究紀要 第 25 集』誌(泡瀬)の発行（平成 30 年 3 月）、研究代表者による「研究ノート」の発表（10/8 日本教育方法学会（千葉大）自由研究発表及び、3/31 本学紀要 48-1 号所収）によりその成果を世に問うた。</p>	
2. 研究の成果	
<p>本研究の結果、泡瀬小児童の学力は、全国学力・学習状況調査により、全国平均を上回り、同市内において 2 番目の成績を収めた。全児童、全保護者、公開研究会参観者へのアンケートにより、本取り組みに関して、約 9 割以上の肯定的意見を得た。協働授業では、学級担任が行う授業を共同研究者である研究代表者や泡瀬の共同研究者である申請者及び、西江重勝氏が共同で行っており、全学級の授業において協働授業を実施した。その成果は、児童の学力向上として現れており、泡瀬小教員が昨年度において、人事異動希望を出した教員が皆無であったという事実からもその成果の傍証として明白である。斎藤喜博が行った学校づくりから今日に至るまでの学校づくり運動との関連、差異については、研究途上であり、今後、その総合比較、相互検証を行う必要がある。そのため、平成 30 年度において、同プロジェクト研究への申請を行った。</p>	
3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）	
<p>【代表者】2017/10/7、千葉大学、日本教育方法学会 53 回大会自由研究発表「授業研究を“核”とする学校づくり—授業と教材研究—」（単独）</p> <p>【代表者】2017/6「授業研究を“核”とする学校づくり運動と教師教育(第 1 回)教師教育は「学校づくり」とどうつながるのか」、Synapse：教員を育て磨く専門誌 (57), 2017-6.7 ジダイ社,P74-77 (単著)</p> <p>【代表者】2018/3/31、『研究紀要』沖縄県沖縄市立泡瀬小学校（共著）</p> <p>【代表者】2018/3/31、[研究ノート] 授業研究を“核”とする学校づくり—教材解釈と授業—、『十文字学園女子大学紀要』48-1 号（単著）pp.145-155</p> <p>【代表者】授業研究を“核”とする学校づくり運動と教師教育(第 5 回) 教師教育が真に学ぶべきもの、『Synapse：教員を育て磨く専門誌』(62)、単著、2018/5 月、ジダイ社、2018/5、P40-43</p>	